

U330BTH

MP3/WMA/AAC/WAV/FLAC 対応 CD/USB レシーバー

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルのため、外国で使用することはできません。



株式会社 JVCケンウッド






安全上のご注意（必ずお守りください）

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区別して、説明しています。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を絵記号で区別して、説明しています。

	注意(しなければならない)の内容です。
	禁止(してはいけない)の内容です。
	実行(かならず行っていただく)の内容です。

取り付けや配線について

警告



本機はDC12V⊖アース車以外で使用しない

火災や故障の原因になります。DC24V車(大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など)で使用しないでください。

エアバックの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしてない

エアバックが誤動作し、死亡事故の原因になります。エアバック装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してください。

取り付けやアース配線に車の保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットを絶対に使用しない

制御不能や発火、交通事故の原因となります。

視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない

交通事故やケガの原因となります。



取り付け・配線は、安全のため専門技術者に依頼する

取り付け・配線、取り外し、周辺機器の追加は専門技術が必要です。誤った取り付けや配線をするると車に重大な支障をきたし交通事故の原因となります。安全のため必ずお買い上げの販売店にご相談ください。

説明書に従って取り付け・配線をする

火災や故障の原因となります。作業は手順とおりに正しく行ってください。



作業前に必ずバッテリーの⊖端子を外す

外さずに作業をするとショートによる感電やけがの原因となります。

作業前に、車体のパイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する

車体に穴を開けて取り付ける場合はパイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないよう注意して、加工部のサビ止め・浸水防止処理をしてください。火災や感電の原因となります。

必ず付属の部品や指定の部品を使用する

機器の損傷や確実に固定できず外れて事故や故障、火災の原因となります。

コード類は、運転を妨げないように引き回し固定する

ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する
断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コードの被覆のない部分はテープなどで絶縁する

被覆がない部分が金属部に接触するとショートによる火災や感電、故障の原因となります。

取り付け・配線後は、車の電装品が正常に動作することを確かめる

車の電装品(ブレーキ、ライト、ホーン、ウインカー、ハザードなど)が正常に動作しない状態で使用すると、火災や交通事故の原因となります。

ねじなどの小物部品は乳幼児の手の届かないところに置く

あやまって飲み込むおそれがあります。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠ 注意



自動車のコンソールに取り付ける

本機の使用中心または使用直後は、本機の背面や側面などの金属部分が高温になっています。直接触れるとやけどの原因となることがあります。取り外すときなどご注意ください。



直射日光やヒータの熱風が直接当たる場所に取り付けない

機器の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

水のかかる場所や湿気・ほこり・油煙の多い場所に取り付けない

水や油煙などが入ると、発煙や発火、故障の原因となることがあります。

機器の通風口や放熱板をふさがない

機器の内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。



コードの扱いに注意する

コードを傷つける、無理に引っ張る、折り曲げる、ねじる、加工する、重いものをのせる、熱機器に近づけるなどしないでください。断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となることがあります。

使用方法について

⚠ 警告



分解・修理および改造はしない

分解・修理、改造、コードの被覆を切って他の機器の電源を取るのは絶対におやめください。交通事故や火災、感電、故障の原因となります。



音量は、車外の音が聞こえない音量で使用しない

車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

使用方法について

警告



機器内部に、水や異物を入れない

金属物や燃えやすいものなどが入ると、動作不良やショートによる火災や発煙、発火、感電の原因となります。飲み物などが機器にかからないようにご注意ください。

故障や異常な状態のまま使用しない

画像が映らない、音が出ない、異物が入った、水がかかった、煙が出る、異音・異臭がする場合は、ただちに使用を中止してください。事故や火災、感電の原因となります。

運転者は走行中に操作したり、画像や表示を注視したりしない

必ず安全な場所に車を停車し、サイドブレーキを引いた状態でご使用ください。交通事故の原因となります。



雷が鳴り出したら、アンテナコードや本機に触れない

落雷による感電の原因となります。



ヒューズは、必ず規定容量品を使用し、交換は専門業者に依頼する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。交換は、お買い上げの販売店、またはお近くのサービス窓口にご相談ください。

注意



本機を車載用以外で使用しない

発煙や発火、感電やけがの原因となることがあります。

使用中または使用直後は放熱器にふれない

本機の使用直中または使用直後は、本体の背面や側面などの金属部分が熱くなっています。本機を取り外すときは、直接触れることはお止めください。やけどをする場合があります。



可動部やディスク挿入口に手や指を入れない

モニター開閉や角度調整の時にはご注意ください。けがの原因となることがあります。

異常時の問い合わせ

警告



異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店がサービス窓口にご相談するそのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

使用上のご注意

本機を使用していただくうえで、知っておいていただきたいことです。

温度について

直射日光下で窓を閉めきっていると、自動車内は非常に高温になります。本機内部が60℃を超える高温になると、保護回路が動作して再生ができなくなります。このようなときは、車内の温度を下げると、保護回路が解除され、再生できるようになります。温度が下がっても正常に動作しないときは本機のリセットボタン(→P.8)を押してください。

結露について

寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内部に露(水滴)が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではディスクの読み取りができなくなります。このようなときは、ディスクを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、お買上げの販売店またはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターへご相談ください。

オートアンテナ付き車に取り付けた場合は

ラジオのアンテナが自動的に伸びるオートアンテナ車に取り付けた場合、本機の電源をオンすると、車両のアンテナが自動的に伸びます。天井の低い車庫に入る場合は、本機の電源をオフにするか、音源を“STANDBY”に切り替えてください。

レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは使用しないでください。光学系部品に損傷を与えたり、イジェクトができなくなるなど、故障の原因になる場合があります。

お手入れについて

本機の操作パネルが汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを付けた布で汚れを落とし、その後クリーナーを拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接本機に吹きかけると、本機の機構部品に支障を与える場合があります。また、固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり文字が消えることがあります。

ディスクの使用上のご注意

- ディスクが汚れたときは、市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。レコード用クリーナー、静電防止剤やシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。
- 本機からディスクを取り出すときは、ディスクを下

側に強く押さず、水平方向に引き出してください。ディスクを下側に押すと、記録面に傷を付ける原因となります。

- 新しいディスクを使うときは、ディスクのセンターホールおよび外周部に“バリ”がないことを確認してください。“バリ”がついたまま使用すると、ディスクが挿入できなかったり音飛びの原因になります。“バリ”があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。
- 音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリ(スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど)は使用しないでください。故障の原因となります。
- 8cmCD、アダプターは使用できません。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となります。


使用できないディスク

以下のディスクは使用しないでください。

- 特殊な形状のディスク。円形以外のディスクは、故障の原因になります。



- 記録面(レーベル面の裏)に着色や汚れがあるディスク。引き込まれない、取り出せないなどの誤動作の原因になります。記録面には触れないようにお取り扱いください。

-  マークのないディスク。

- 正しく再生されない可能性があります。
- ファイナライズ処理していないCD-R、CD-RW。お使いのCD-R/CD-RWライティングソフト、CD-R/CD-RWレコーダーの取扱説明書を参照して、記録を行った機器以外のプレーヤーでも再生できるようにするための処理(ファイナライズ処理)を行ってください。ただし、CD-R/CD-RWはファイナライズ処理をしていても、記録状態によって再生できない場合があります。
- 汚れ、傷、ゴミのついたディスク、反りのあるディスク。音飛びなどの誤動作や音質劣化の原因になることがあります。
- 表面に紙テープなどが貼られたディスク、ラベルのノリがはみ出したディスク。ディスクが取り出せなくなったり、本機が故障することがあります。

表示できる文字について

英大文字、数字といくつかの記号が表示できます。表示できない文字は、“_”表示となります。

異常にお気づきのときは(リセット方法)

本機の異常にお気づきのときは、「故障かな?と思ったら」(→ P.36)を参照して解決方法をお調べください。解決方法が見つからないときは、本機のリセットボタン(→ P.8)をペン先などで押してください。リセットボタンを押しても正常に戻らないときは、本機の電源を切り、お買上げの販売店へご相談ください。

その他

偏光サングラスを使用すると、視認性が低下する場合があります。

電波について

- 本機は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています(受けた部品を使用しています)。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。日本国内のみで使用してください。日本国内以外で使用すると各国の電波法に抵触する可能性があります。また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
 - 分解/改造すること
 - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと
- 本機は2.4GHz帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。ほかの無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

使用上のご注意

本機の使用周波数帯(2.4GHz)では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、当社カスタマーサポートセンターにご連絡頂き、混信回避の処置等についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、当社カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

- 製品に表示している周波数表示の意味は下記の通りです。

2.4 FH 1	2.4:	2.4GHz帯を使用する無線機器です。
	FH:	FH-SS変調方式を表します。
	1:	電波と干渉距離は10mです。
	■■■■:	全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能です。

- 使用可能距離は見通し距離約10 mです。鉄筋コンクリートや金属の壁等をはさんでトランスミッターとレシーバーを設置すると電波を遮ってしまい、音楽が途切れたり、出なくなったりする場合があります。本機を使用する環境により伝送距離が短くなります。
- 下記の電子機器と本機との距離が近いと電波干渉により、正常に動作しない、雑音が発生するなどの不具合が生じることがあります。
 - 2.4GHzの周波数帯域を利用する無線LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話などの機器の近く。電波が干渉して音が途切れることがあります。
 - ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CSチューナー、VICSなどのアンテナ入力端子を持つAV機器の近く。音声や映像にノイズがのることがあります。
- 本機は電波を使用しているため、第三者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。

もくじ

安全上のご注意（必ずお守りください）.....	2
使用上のご注意.....	5
基本操作.....	8
日付と時刻を合わせる.....	9
ステアリングリモコンを使う.....	10
ラジオを聞く.....	12
交通情報を聞く.....	13
CD/USB/iPod/Android を聞く.....	14
外部接続機器を聞く.....	18
アプリケーションを使う.....	19
Bluetooth® 機器を使う.....	21
音質を設定する.....	28
ディスプレイの表示を設定する.....	32
その他の設定.....	34
その他の情報.....	35
故障かな？と思ったら.....	36
仕様.....	39
保証とアフターサービス.....	41
特許権 / 著作権 / 商標など.....	42
ソフトウェアについて.....	43

この取扱説明書の見かた

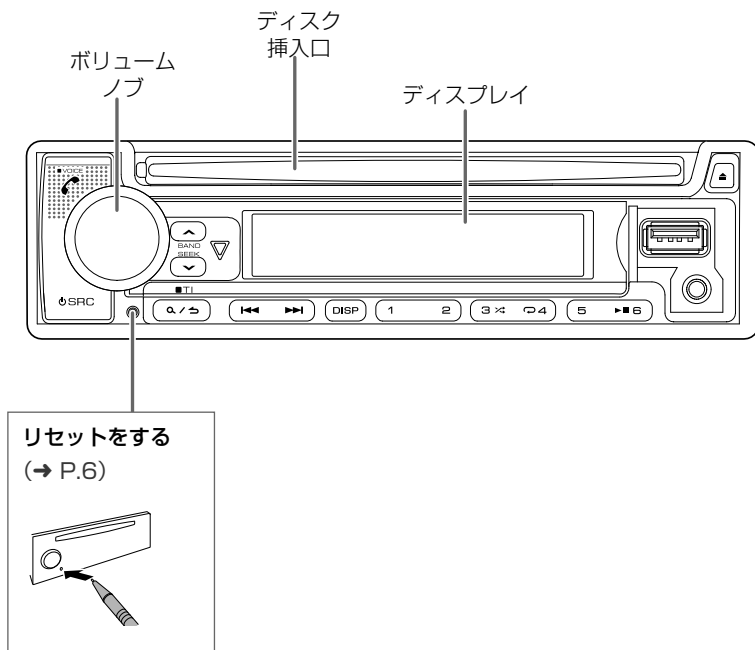
- ・操作は本体の操作パネル上のボタンを使って説明しています。
- ・（→ P.XX）は、本文中の参照ページを示しています。

免責事項について

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

基本操作

操作パネル



動作

操作パネル

電源をオン/オフする

[**SRC**]を押す
 ・押し続けると電源がオフになります。

音量を調整する

ボリュームノブを回す

音源を切り替える

[**SRC**]を押すたびに音源が切り替わります。

ディスプレイの表示を切り替える

[**DISP**]を押すたびに表示が切り替わります。(→ P.33)

日付と時刻を合わせる



- 1 ボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して“CLOCK”を選び、ボリュームノブを押す

時刻を合わせる

- 1 ボリュームノブを回して“CLOCK ADJUST”を選び、ボリュームノブを押す
- 2 ボリュームノブを使い(回して選択、押して確定)「時」⇒「分」の順番で時間を合わせる
- 3 ボリュームノブを回して“CLOCK FORMAT”を選び、ボリュームノブを押す
- 4 ボリュームノブを回して“12H”または“24H”を選び、ボリュームノブを押す

日付を合わせる

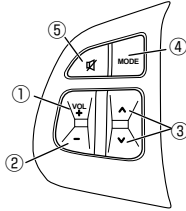
- 1 ボリュームノブを回して“DATE FORMAT”を選び、ボリュームノブを押す
- 2 ボリュームノブを回して“DD/MM/YY” (日/月/年)または“MM/DD/YY” (月/日/年)を選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを回して“DATE SET”を選び、ボリュームノブを押す
- 4 ボリュームノブを使い(回して選択、押して確定)「日」⇒「月」⇒「年」または「月」⇒「日」⇒「年」の順番で日付を合わせる

- [Q/S] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

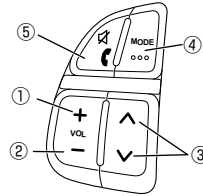
ステアリングリモコンを使う

お使いのお車にステアリングリモコンが装着されている場合、ステアリングリモコンから本機を操作することができます。

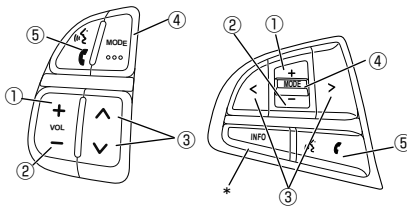
SUZUKI A



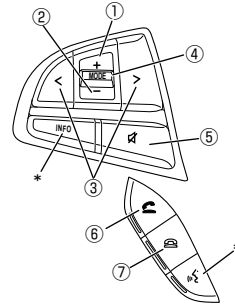
SUZUKI B



SUZUKI C



SUZUKI D

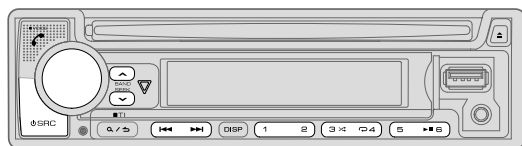


- * 「INFO」キーおよび音声認識機能のキーには対応していません。
- SUZUKI D は車両によって「☎」、「☎」、「☎」キーに対応していません。

ボタン	音源	説明
①	全音源	音量が上がります。
②	全音源	音量が下がります。
③	FM AM	<ul style="list-style-type: none"> • 押すたびに登録されている放送局が順番に切り替わります。 • FM または AM のときに押すと、受信状態の良い放送局を受信します。
	交通情報	• 1620kHz → 1629kHz と押すたびに切り替わります。
	CD	<ul style="list-style-type: none"> • 押すたびに前の曲 / ファイル または次の曲 / ファイルを再生します。 • 押し続けると早戻しまたは早送りします。
	USB Bluetooth AUDIO	<ul style="list-style-type: none"> • 押すたびに前のファイル または次のファイルを再生します。 • 押し続けると早戻しまたは早送りされます。
	iPod USB	<ul style="list-style-type: none"> • 押すたびに前の曲または次の曲を再生します。 • 押し続けると早戻しまたは早送りします。

ボタン	音源	説明
④	全音源	<ul style="list-style-type: none"> 音源を切り替えます。切り替わる音源は本機に接続している機器や Bluetooth 接続しているかなどにより変わります。
⑤	全音源	<ul style="list-style-type: none"> SUZUKI A/SUZUKI D : 押すと音量が小さくなります。もう一度押すと元の音量に戻ります。 SUZUKI B : 押すと音量が小さくなります。もう一度押すと元の音量に戻ります。Bluetooth 接続中は、ハンズフリーの電話を受けます。通話中に押すとハンズフリーの電話を切ります。 SUZUKI C : Bluetooth 接続中は、ハンズフリーの電話を受けます。リモコンキーにある音声認識機能には対応していません。
⑥	全音源	Bluetooth 接続中でハンズフリー電話の着信時に電話を受けます。
⑦	全音源	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 接続中でハンズフリー電話の通話中に押すとハンズフリーの電話を切ります。 Bluetooth 接続中でハンズフリー電話の着信時に押すと着信を拒否します。

ラジオを聞く



放送局を探す

- 1 [SRC]を繰り返し押しして**RADIO**を選ぶ
- 2 [BAND]を繰り返し押しして、FM1、FM2、AM1、またはAM2を選ぶ
- 3 [◀◀]/[▶▶]を押しして、放送局を探す

● [◀◀]/[▶▶] の検索方法を変える

1 [SEEK]を押す

押すたびに以下のモードに切り替わり、[◀◀]/[▶▶] を押したときの検索方法が変わります。

AUTO1：放送局を自動的に受信します。

AUTO2：登録されている放送局を順番に受信します。

MANUAL：1 ステップずつ周波数が変わります。

放送局をプリセットする

● 手動でプリセットする

- 1 プリセットしたい放送局を受信する
- 2 プリセットしたい数字ボタン[1]～[6]を押し続ける
“STORED”と表示され放送局が登録されます。

● 自動で登録する

“PRESET TYPE” の設定が“NORMAL”に設定されているときのみ、この機能を使用できます。
(→ P.34)

- 1 ボリュームノブを押しして“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して“TUNER SETTING”を選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを回して“AUTO MEMORY”を選び、ボリュームノブを押す
- 4 ボリュームノブを回して“YES”を選び、ボリュームノブを押す

FMステレオ放送をモノラルで受信する

受信状態が悪いときなど、FM ステレオ放送をモノラルで受信して雑音を軽減することができます。

- 1 ボリュームノブを押しして“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して“TUNER SETTING”を選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを回して“MONO SET”を選び、ボリュームノブを押す
- 4 ボリュームノブを回して“ON”を選び、ボリュームノブを押す

交通情報を聞く



1 [Q/↵]を押し続ける

交通情報が受信されます。

もう一度 [Q/↵] を押し続けると、交通情報受信前の状態に戻ります。

交通情報受信中は“TI”表示が点灯します。

● 交通情報の受信周波数を切り替える

1 交通情報を受信中に[◀◀]/[▶▶]を押す

受信周波数が 1620 kHz または 1629 kHz に切り替わります。

- 受信中に交通情報の音量を調節すると、その音量が自動的に記憶され、次に交通情報を受信したときも同じ音量で聞くことができます。
- 本機の操作モードで“MODE ON”が選ばれているときは、交通情報が終了しても iPod の再生は自動的に始まりません。再生を始めるには、[6] (▶||) を押ししてください。

CD/USB/iPod/Android を聞く

再生する

CD

ディスクを挿入すると音源が CD に切り替わり再生が始まります。

レーベル面を上にする [▲] (ディスク取り出し) ボタン



USB/iPod/Android

USB/iPod/Android を接続すると音源が以下のようにに切り替わり自動で再生が始まります。

USB : **USB** iPod : **iPod USB** Android : **ANDROID**

- USB 接続した機器は、音楽再生が可能な状態のときのみ、自動で再生が始まります。
- Android 機器は、OS4.1 以降であっても機器によっては AOA2.0 に完全に対応していない場合があります。
- Android 機器を接続すると、“Press [VIEW] to install KENWOOD MUSIC PLAY APP” ([表示] を押して、KENWOOD MUSIC PLAY アプリをインストールしてください) と表示されます。表示される指示に従ってアプリをインストールしてください。接続前に KENWOOD MUSIC PLAY 最新バージョンをインストールすることもできます。詳しくは、<<http://www.kenwood.com/jp/car/>> をご覧ください。

● USB 機器を接続する

USB 入力端子



ご注意

- 接続ケーブルは車内に放置しないでください。
- USB は USB 延長ケーブルを使用せずに接続すると USB が突起物となり危険です。USB 延長ケーブル (市販品) を使用して接続してください。
- 接続機器および接続ケーブルは、運転を妨げないように引き回し、固定してご使用ください。



動作	操作パネル
再生 / 一時停止をする	[6] (▶) を押す
早戻し / 早送りをする *1	[◀◀]/[▶▶] を押し続ける
曲またはファイルを選ぶ	[◀◀]/[▶▶] を押す
フォルダーを選ぶ *2	[▲]/[▼] を押す
リピート再生をする *3	[4] (↺) を繰り返し押す TRACK REPEAT/ALL REPEAT : 音楽 CD FILE REPEAT/FOLDER REPEAT/ALL REPEAT : MP3/WMA/AAC/WAV/ FLAC ファイル FILE REPEAT/FOLDER REPEAT/REPEAT OFF : iPod または Android
ランダム再生をする *3	[3] (↻) を繰り返し押す DISC RANDOM/RANDOM OFF : 音楽 CD FOLDER RANDOM/RANDOM OFF : MP3/WMA/AAC/WAV/FLAC ファイル、 iPod または Android
	[3] (↻) を押し続けて、 ALL RANDOM *4 を選ぶ

*1 Android は、操作モードが “**BROWSE MODE**” のときのみ使えます。

*2 CD は、MP3/WMA/AAC ファイルのみ使えます。iPod または Android では使えません。

*3 iPod または Android は、“**MODE OFF**” または “**BROWSE MODE**” が選ばれているときのみ使えます。

*4 CD は、MP3/WMA/AAC ファイルのみ使えます。

操作モードを選ぶ(iPod/Androidのみ)

iPod または Android から操作するか、本機で操作するかを選びます。

1 iPodまたはAndroidを接続して[5]を繰り返し押す

● 音源が iPod USB/iPod BT のとき

MODE ON : iPod から操作します。再生 / 一時停止、曲やファイルの選択、早送りまたは早戻しは本機からも操作可能です。

MODE OFF : 本機から iPod を操作します。

● 音源が ANDROID のとき

BROWSE MODE : 本機から KENWOOD MUSIC PLAY を使い Android を操作します。

HAND MODE : KENWOOD MUSIC PLAY 以外の再生アプリを使い Android で操作します。再生 / 一時停止、曲やファイルの選択は本機からも操作可能です。

MUSIC DRIVEを選ぶ(USBのみ)

音源が **USB** のときに、外部メモリー（マストレージクラス）やマルチドライブ機器中の選ばれたドライブなど、再生するドライブを操作パネルのボタンまたは設定メニューで選ぶことができます。

● 操作パネルのボタンで選ぶ

- 1 USB機器を接続して[5]を繰り返し押す

● 設定メニューで選ぶ

- 1 ボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して“USB”を選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを回して“MUSIC DRIVE”を選び、ボリュームノブを押す
- 4 ボリュームノブを回して再生するドライブを選び、ボリュームノブを押す

再生したいファイルを選ぶ

● フォルダーまたはリストからファイルを選ぶ

iPod は “MODE OFF”、Android は “BROWSE MODE” が選ばれているときのみ使えます。(→ P.15)

- 1 [Q/△]を押す
- 2 ボリュームノブを回してフォルダーまたはリストを選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを回してファイルを選び、ボリュームノブを押す
ファイルの再生がはじまります。

● スキップサーチ (iPod USB/iPod BT/ANDROID のみ)

ファイルのリストなどを表示しているときに [◀◀]/[▶▶] を押すとリストが “SKIP SEARCH” で設定された割合で表示がスキップします。

- 1 [Q/△]を押す
- 2 ボリュームノブを回してフォルダーまたはリストを選び、ボリュームノブを押す
- 3 [◀◀]/[▶▶]を押す
[◀◀]/[▶▶] を押し続けると、設定された割合で連続して表示がスキップします。

“SKIP SEARCH” の設定をする

- 1 ボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して“USB”を選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを回して“SKIP SEARCH”を選び、ボリュームノブを押す
- 4 ボリュームノブを回して検索する速さ (0.5%/ 1%/ 5%/ 10%)を選び、ボリュームノブを押す
ファイルの割合は総ファイル数との割合を%で表示しています。お買い上げ時は 0.5%に設定されています。

● クイックサーチ (CD/USB/ANDROID の場合)

- 1 [Q/△]を押す
- 2 ボリュームノブを回してフォルダーまたはリストを選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを速く回す
検索スピードが上がります。

● アルファベットで検索する (iPod USB/iPod BT/ANDROID のみ)

ファイルの頭文字で検索できます。

音源が iPod USB/iPod BT の場合

- 1 [Q/⏏]を押す
- 2 ボリュームノブを回してフォルダーまたはリストを選び、ボリュームノブを押す
- 3 ボリュームノブを一度素早く回す
検索モードに入ります。
- 4 ボリュームノブを回して文字を選ぶ
A～Z または 0～9 以外の文字の場合は、“*” を選びます。
- 5 次の文字も入力してから検索するには、[◀◀]/[▶▶]を押して、入力位置を移動する
3文字まで入力できます。
- 6 ボリュームノブを押す
検索がはじまり、検索した文字が含まれるまたは文字に近い（アルファベット順）ファイルが表示されます。
- 7 ボリュームノブを押す
再生がはじまります。

音源が ANDROID の場合

- 1 [Q/⏏]を押す
- 2 ボリュームノブを回してフォルダーまたはリストを選び、ボリュームノブを押す
- 3 [▲]/[▼]を押して文字を入力する
- 4 ボリュームノブを回して文字を選ぶ
^A^ : アルファベット大文字 (A～Z)
A : アルファベット小文字 (a～z)
-0- : 数字 (0～9)
*** : A～Z、または 0～9 以外の場合
- 5 ボリュームノブを押す
検索がはじまり、検索した文字が含まれるまたは文字に近い（アルファベット順）ファイルが表示されます。
- 6 ボリュームノブを押す
再生がはじまります。
ルートフォルダ / 最初のファイル / トップメニューに戻るには、[5] を押します。(BT AUDIO ではこの機能は使えません)

- [Q/⏏]を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

Bluetooth 接続で iPod/iPhone を聞く

本機では Bluetooth 接続で iPod/iPhone の曲を聞くことができます。

- 1 iPod/iPhoneをBluetooth接続で接続する(→ P.21)
- 2 [⏏SRC]を繰り返し押し*てiPod BT*を選ぶ
 - USB 入力端子接続の iPod/iPhone と同じように操作することができます。
 - iPod BT の音源を再生中、USB 入力端子に iPod/iPhone を接続すると、自動的に iPod USB に切り替わります。

外部接続機器を聞く

● 準備

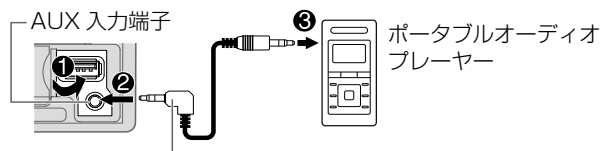
- ・ “SYSTEM” 設定の “SOURCE SELECT” の “BUILT-IN AUX” を “ON” にします。(→ P.34)

ご注意

- ・ 接続ケーブルは車内に放置しないでください。
- ・ 接続機器および接続ケーブルは、運転を妨げないように引き回し、固定してご使用ください。

再生する

- 1 ポータブルオーディオプレーヤー(市販品)を接続する



ステレオミニプラグ (φ 3.5 mm、市販品)

- 2 [SRC]を繰り返し押しして**AUX**を選ぶ
- 3 ポータブルオーディオプレーヤーの電源をオンにして、再生を始める

外部機器の名前を設定する

本機に接続されている外部機器の名称を変更することができます。

- 1 接続されているポータブルオーディオプレーヤーを再生する
 - 2 ボリュームノブを押しして“FUNCTION”モードに入る
 - 3 ボリュームノブを回して“SYSTEM”を選び、ボリュームノブを押す
 - 4 ボリュームノブを回して“AUX NAME SET”を選び、ボリュームノブを押す
 - 5 ボリュームノブを回して設定したい名前を以下の6つから選び、ボリュームノブを押す
AUX (初期設定) / DVD / PORTABLE / GAME / VIDEO / TV
- ・ [Q/△]を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

アプリケーションを使う

Spotify を聞く

- Spotify は第三者サービスなので、それについての仕様は予告なく変わる場合があります。したがって、互換性がなくなったり、サービスによってはご利用できなくなる場合もあります。機能によっては本機でご利用にならない場合があります。Spotify アプリの詳細については、<www.spotify.com> をご覧ください。

● 準備

- APP Store または Google Play から **“Spotify”** をスマートフォンにインストールします。
- 設定メニューの **“SOURCE SELECT”** の **“SPOTIFY SRC”** を **“ON”** にします。(→ P.34)

再生する

- 1 スマートフォンの Spotify アプリを起動する

- 2 スマートフォンを本機と接続する

iPod/iPhone の場合：

USB 入力端子に接続 (→ P.14) または Bluetooth 接続で接続する (→ P.21)

Android の場合：

Bluetooth 接続で接続する (→ P.21)

- 3 [⏪ SRC] を繰り返し押し続けて **SPOTIFY** (Bluetooth 接続の場合は **SPOT BT**) を選ぶ
放送が自動的に開始されます。

動作	操作パネル
再生 / 一時停止をする	[6] (▶) を押す
曲をスキップする	[◀◀]*1/[▶▶] を押す
サムズアップまたはサムズダウン *2	[^]/[v] を押す
ラジオを聞く	[5] を押し続ける
リピート再生をする *3	[4] (↺) を繰り返し押す REPEAT ALL/REPEAT ONE*1/REPEAT OFF
ランダム再生をする *1*3	[3] (↻) を繰り返し押す SHUFFLE ON/SHUFFLE OFF

*1 プレミアムアカウントをお持ちの方のみ使用可能です。

*2 この機能はラジオのトラックのみ使用可能です。サムズダウンを設定すると、その曲はスキップされます。

*3 プレイリストのトラックのみ使用可能です。

曲または放送局を探す

- 1 [Q/↵] を押す

- 2 ボリュームノブを回してリストタイプを選び、ボリュームノブを押す
Spotify から送信される情報によって表示されるリストタイプは異なります。

- 3 ボリュームノブを回して曲または放送局を選び、ボリュームノブを押す
ボリュームノブを速く回すと、リストの検索スピードが上がります。

- ・ [Q/↵] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

KENWOOD リモートアプリを利用する

KENWOOD リモートアプリを使い、KENWOOD カーレシーバーを iPod/iPhone (Bluetooth 接続または USB 入力端子接続) または Android (Bluetooth 接続) から操作することができます。

KENWOOD Remote アプリの詳細については、<http://www.kenwood.com/jp/products/car_audio/app/> をご覧ください。

● 準備

• APP Store または Google Play から **“KENWOOD Remote”** をスマートフォンにインストールします。

1 スマートフォンの **KENWOOD Remote** アプリを起動する

2 スマートフォンを本機と接続する

iPod/iPhone の場合：

USB 入力端子に接続 (→ P.14) または Bluetooth 接続で接続する (→ P.21)

Android の場合：

Bluetooth 接続で接続する (→ P.21)

3 本機で **“KENWOOD Remote”** を使うための設定をする

1 ボリュームノブを押して **“FUNCTION”** モードに入る

2 ボリュームノブを回して **“REMOTE APP”** を選び、ボリュームノブを押す(下表参照)

3 手順2を繰り返して項目を選び、設定する

• [**Q/△**] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

初期設定： **XX**

REMOTE APP	
SELECT	アプリで使う機器 (iOS または ANDROID) を選びます。
IOS	<p>YES : iPod/iPhone を選んで、Bluetooth 接続または USB 入力端子接続でアプリを使用できます。</p> <p>IOS を選んでいるときは、iPod BT (お使いの iPod/iPhone が USB 入力端子に接続されている場合は、iPod USB) を音源として選んでアプリを立ち上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の場合、アプリの接続が中断または完全に切れる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> - 音源を iPod BT から、USB 入力端子で接続されている音源に切り換えた場合 - 音源を iPod USB から iPod BT に切り換えた場合 <p>NO : この機能を使用しません。</p>
ANDROID	<p>YES : Android が選ばれ、Bluetooth 接続でアプリを使用できます。</p> <p>NO : この機能を使用しません。</p>
ANDROID LIST* : 使用する Android をリストから選びます。	
* “SELECT” の “ANDROID” が “YES” になっているときのみ、表示されます。	
STATUS	<p>選んだ機器の状態を表示します。</p> <p>IOS CONNECTED : Bluetooth 接続または USB 入力端子接続されている iPod/iPhone を使ってアプリを使うことができます。</p> <p>IOS NOT CONNECTED : アプリを使える IOS 機器が接続されていません。</p> <p>ANDROID CONNECTED : Bluetooth 接続されている Android を使ってアプリを使うことができます。</p> <p>ANDROID NOT CONNECTED : アプリを使える Android が接続されていません。</p>

TuneIn Radio/TuneIn Radio Pro を聞く (iPod/iPhone のみ)

iPod/iPhone で TuneIn Radio/TuneIn Radio Pro を聞いているときに、本機の USB 入力端子に接続すると、本機に接続したスピーカーから音を出すことができます。

Bluetooth® 機器を使う

Bluetooth機器について

- Bluetooth のバージョンによっては、本機と接続できないことがあります。
- Bluetooth 機器によっては、本機で使用できないことがあります。
- 周囲環境により、接続環境も異なります。

対応している Bluetooth のプロファイル

- Hands-Free Profile (HFP)
- Advanced Audio Distribution Profile (A2DP)
- Audio/Video Remote Control Profile (AVRCP)
- Serial Port Profile (SPP)
- Phonebook Access Profile (PBAP)

対応している Bluetooth のコーデック

- Sub Band Codec (SBC)
- Advanced Audio Coding (AAC)

Bluetooth機器をはじめてペアリング・接続する

- 1 ペアリングする機器のBluetooth設定をオンにする
- 2 Bluetooth機器で**U330BTH**を選ぶ
- 3 “PAIRING” → “PASS XXXXXX” → 機器名 → “PRESS” → “VOLUME KNOB”とディスプレイに表示されたらボリュームノブを押す

ペアリングが始まります。ペアリングが完了すると“PAIRING OK”と表示されBluetooth接続されます。

- 本機は 5 台まで登録（ペアリング）できます。
- 本機に Bluetooth 機器を登録（ペアリング）すると 2 台まで自動でハンズフリー通話用として接続（待ち受け状態）されます。また、最後に本機に登録（ペアリング）した機器は、BT AUDIO（音源）再生する機器として接続されます。登録した機器の接続、解除については 25 ページの「PHONE SELECT」または「AUDIO SELECT」をご覧ください。
- Bluetooth 機器によっては、手順 3 で機器が検索された後に PIN コードを入力する必要があります。
- 本機は Secure Simple Pairing (SSP) に対応しています。
- 一度ペアリングを行うと、本機をリセットしても、Bluetooth 機器は削除されません。登録された機器を削除するには、26 ページの「DEVICE DELETE」をご覧ください。
- Bluetooth 機器によっては、ペアリングしても、本機に自動的に接続されない場合があります。そのときは、手動で接続してください。
- 電話帳を使用する場合は、ペアリングするときに接続する携帯電話の連絡先や通話履歴のアクセスを許可する設定にしてください。許可しない場合は本機で電話帳などが使用できません。iPhone の電話帳を本機で使用する場合は、ペアリングをした後に次の操作を行ってください。

- 1 iPhoneのBluetooth画面で本機を選び「連絡先を同期」をオンにする
- 2 手順1の設定画面で「接続解除」にタッチして本機との接続を一旦解除する
- 3 Bluetooth画面に戻りU330BTHをタッチして本機と接続する

転送後の電話帳の操作については 24 ページの「PHONE BOOK」をご覧ください。

オートペアリングを起動する

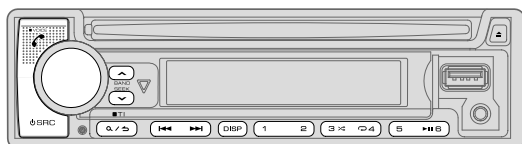
iPod/iPhone、または Android 機器を USB 入力端子に接続すると Bluetooth のペアリングが自動的に起動します。

- 1 ペアリングする機器の Bluetooth 設定をオンにする
- 2 ペアリングする機器を USB 接続する
- 3 機器名を確認して、ボリュームノブを押す

オートペアリングは次のような場合にオンになります。

- 接続されている機器の Bluetooth 機能がオンになっている場合
- “AUTO PAIRING” が “ON” になっている場合 (→ P.26)
- Android に KENWOOD MUSIC PLAY アプリがインストールされていて、“BROWSE MODE” が選択されている場合 (→ P.15)

ハンズフリー電話として使う




電話を受ける

- “AUTO ANSWER” で時間設定がされていると自動的に電話を受けます。(→ P.23)
- 通話中に本機の電源を切ると、Bluetooth 接続が解除されます。
- 接続されている携帯電話によっては、以下の操作方法が異なったり、できないことがあります。

動作	操作パネル
電話を受けるには	
電話を受ける	[], ボリュームノブまたは [1] ~ [6] のどれかを押す
着信を拒否する	[] を押す
通話を終了する	[] を押す
通話中に	
通話中にいまの電話を保留して他の電話を受ける	[] を押す
通話中に他の着信を拒否する	[] を押す
通話を切り替えるには	
現在の通話を終了し、保留中の電話に切り替える	[] を押す
現在の通話と保留の電話を切り替える	[] を押す
受話音量を調節する “00 ~ 35” (初期設定: “15”)	通話中にボリュームノブを回す ・ここで調節する音量は、他の音源の音量調節には影響しません。
普通通話モードとハンズフリー通話を切り替える	通話中に [6] を押す ・接続されている Bluetooth 機器によっては、操作方法が異なることがあります。

送話音質を調節する

- 1 通話中にボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して設定したい項目を選び、ボリュームノブを押す(下表参照)
- 3 手順2を繰り返して項目を選び、設定する

・[] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

初期設定：XX


MIC GAIN	LEVEL -10 ~ LEVEL +10 (LEVEL 0) : 数値が大きくなるほど、マイクの感度が高くなります。
NR LEVEL	LEVEL -5 ~ LEVEL +5 (LEVEL 0) : 通話中の雑音を低減するように調節します。
ECHO CANCEL	LEVEL -5 ~ LEVEL +5 (LEVEL 0) : 通話時のエコーを低減するように調節します。

電話を受けるための設定をする

- 1 [] を押す
- 2 ボリュームノブを回して“SETTINGS”を選び、ボリュームノブを押す




初期設定：XX

SETTINGS	
AUTO ANSWER	1 ~ 30 : 設定した時間(秒)が着信中に経過すると、自動的に電話を受けます。 OFF : この機能を使用しません。
BATT/SIGNAL	AUTO : 本機のディスプレイに、接続された Bluetooth 機器のバッテリーの残量と受信電波の強さが表示されます。 OFF : この機能を使用しません。

- 3 手順2を繰り返して項目を選び、設定する
- ・[] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

電話をかける

電話番号を入力してダイヤルするだけでなく、履歴や電話帳を使い電話をかけることができます。音声認識のついた携帯電話をお使いのときは、音声で電話をかけることもできます。

- 1 [] を押す
機器名が表示されます。
・Bluetooth 携帯電話が 2 台接続されている場合は、もう一度 [] 押すと 2 台目の機器名が表示されます。
 - 2 ボリュームノブを回して電話をかける方法を選び、ボリュームノブを押す(下表参照)
 - 3 手順2を繰り返して選んだ項目の説明に従って操作する
- ・[] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

HF MODE	
CALL HISTORY	(PBAP に対応していない携帯電話では使用できません) 1 ボリュームノブを押して名前または電話番号を選ぶ ・“I”(着信)、“O”(発信)、“M”(未受信)の履歴タイプがディスプレイに表示されます。 ・[DISP] を押して “NUMBER (電話番号)” 表示か “NAME (名前)” 表示かを切り替えます。 ・履歴が記録されていないときは、“NO DATA” と表示されます。 2 ボリュームノブを押して電話をかける

PHONE BOOK	(PBAP に対応していない携帯電話では使用できません) 1 ボリュームノブを素早く回す アルファベット検索モードになります。“A”～“K”までの文字がディスプレイに表示されます。 ・“L”以降の文字列 (“LMNOPQRSTUVWXYZ” または “WXYZ1*”) を表示するには、 [▲]/[▼] を押します。 ・最初のアルファベットを選ぶには、ボリュームノブを回すか、[◀◀]/[▶▶] を押してからボリュームノブを押します。数字で始まる「名前」を選ぶときは、“1”を選びます。記号で始まる「名前」を選ぶときは、“*”を選びます。 2 ボリュームノブを回して名前を選び、ボリュームノブを押す 3 ボリュームノブを回して電話番号を選び、ボリュームノブを押して電話をかける ・ペアリング時に接続された携帯電話の電話帳が自動的に本機に転送されます。 ・連絡先は次のように分けられます：HOME（自宅）、OFFICE（勤務先）、MOBILE（携帯）、OTHER（その他）、GENERAL（一般） ・電話帳は標準的なアルファベットのみ表示できます。アクセント記号は表示できません (“U” などは “U” と表示されます)。
NUMBER DIAL	1 ボリュームノブを回して数字 (0～9)、アルファベットまたは記号 (*、#、+) を選ぶ 2 [◀◀]/[▶▶] を押して、入力的位置を移動する ・手順 1 と手順 2 を繰り返し、電話番号を入力します。 3 ボリュームノブを押して電話をかける
VOICE	電話をかけたい相手の名前を言う ボイスコマンドを使い、電話の他の機能を利用することもできます。
BATT LOW/MID/FULL* ：電池の残量を表示します。	
NO SIGNAL/LOW/MID/MAX* ：現在受信している信号の強さを表示します。	

* お使いの携帯電話が対応しているときのみ使うことができます。

音声認識で電話をかける

1 [📞] を押し続ける

接続されている携帯電話から音声認識で電話をかけられるようになります。

2 電話をかけたい相手の名前を言う

ボイスコマンドを使い、電話の他の機能を利用することもできます。

- ・対応している音声認識コマンドは携帯電話によって異なります。詳しくはお使いの携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

- ・本機は iPhone のインテリジェントパーソナルアシスタントにも対応しています。

連絡先を数字ボタンに登録する

連絡先を数字ボタン [1]～[6] に登録して、短縮ダイヤルとして利用できます。

1 [📞] を押す

2 ボリュームノブを回して“CALL HISTORY”、“PHONE BOOK”、または“NUMBER DIAL”を選び、ボリュームノブを押す

3 ボリュームノブを回して、名前を選ぶか、電話番号を入力する


名前を選んだ後、ボリュームノブを押すと、電話番号を表示させることができます。

4 連絡先を登録する数字ボタン([1]～[6])を押し続ける


連絡先が登録されると“STORED”というメッセージが表示されます。

- 登録した連絡先を数字ボタンから消去するには、手順 2 で“NUMBER DIAL”を選び、手順 3 で番号を入力せず、手順 4 を行います。

登録されている番号に電話をかける

- []を押す
- 数字ボタン([1]～[6])を押す
- ボリュームノブを押して電話をかける
押した数字ボタンに連絡先が登録されていないときは、“NO MEMORY”というメッセージが表示されます。

Bluetooth機能の設定をする

- ボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
- ボリュームノブを回して“BT MODE”を選び、ボリュームノブを押す(下表参照)
- 手順2を繰り返して項目を選び、選んだ項目の表中の指示に従って操作する
・[]を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

初期設定：XX

BT MODE	
PHONE SELECT	<p>ハンズフリー通話で使用する Bluetooth 携帯電話を表示します。ハンズフリー通話用の携帯電話は、機器名の前に“*”が表示されます。ハンズフリー通話用としては 2 台まで接続(着信を待ち受けている状態)できます。</p> <p>ハンズフリー通話用接続を解除したいときは</p> <ol style="list-style-type: none">“PHONE SELECT”を表示して、ボリュームノブを回して接続を解除したい携帯電話を選び、ボリュームノブを押すボリュームノブを押して“*”表示を消す <p>ハンズフリー通話用として接続したいときは</p> <ol style="list-style-type: none">“PHONE SELECT”を表示して、ボリュームノブを回して接続したい携帯電話を選び、ボリュームノブを押すボリュームノブを回して接続したい携帯電話を選び、ボリュームノブを押す ・選んだ機器名の前に“*”が表示されハンズフリー通話用として接続できます。
AUDIO SELECT	<p>音源を BT AUDIO として再生する Bluetooth オーディオ機器を表示します。BT AUDIO として再生する機器名の前に“♪”が表示されます。</p> <p>BT AUDIO 接続を解除したいときは</p> <ol style="list-style-type: none">“AUDIO SELECT”を表示して、ボリュームノブを回して接続を解除したい携帯電話を選び、ボリュームノブを押すボリュームノブを押して“♪”表示を消す <p>BT AUDIO として接続したいときは</p> <ol style="list-style-type: none">“AUDIO SELECT”を表示して、ボリュームノブを回して接続したい携帯電話を選び、ボリュームノブを押すボリュームノブを回して接続したい携帯電話を選び、ボリュームノブを押す ・選んだ機器名の前に“♪”が表示され BT AUDIO として接続できます。

DEVICE DELETE	1 ボリュームノブを回して削除する機器を選び、ボリュームノブを押す 2 ボリュームノブを回して“YES”または“NO”を選び、ボリュームノブを押す
PIN CODE EDIT (0000)	PIN コードを変更します (6 桁まで)。 1 ボリュームノブを回して数字を選ぶ 2 [◀◀]/[▶▶] を押して、入力的位置を移動する ・手順 1 と手順 2 を繰り返し、PIN コードを入力します。 3 ボリュームノブを押して決定する
RECONNECT	ON/OFF ：この機能をオンにすると、最後に接続された Bluetooth 機器が感知範囲内に入った場合に、自動的に再接続します。
AUTO PAIRING	ON ：iPod/iPhone/Android 機器が USB 端子に接続された場合に自動的にペアリングします。接続された機器の OS によっては、この機能が使えないことがあります。 OFF ：この機能は使用しません。
INITIALIZE	YES ：Bluetooth の全設定（登録されたペアリング情報、電話帳など）を初期化します。 NO ：この機能は使用しません。

Bluetooth テストモード

本機と Bluetooth 機器間で使用できるプロファイルを確認できます。

・ Bluetooth 機器がペアリングされていないことを確認してください。

1 [↻] を押し続ける

“PLEASE PAIR YOUR PHONE PIN 0000” (電話をペアリングしてください PIN 0000) というメッセージが表示されます。

2 Bluetooth 機器で U330BTH を探して選ぶ

3 Bluetooth 機器を操作してペアリングする

本機のディスプレイ上に“TESTING” (テスト中) のメッセージが点滅します。

テスト終了後、以下の項目に“OK”または“NG”のテスト結果が表示されます。

PAIRING : ペアリングが可能か。

HF CNT : ハンズフリー通話に対応しているか。

AUD CNT : オーディオ機器として A2DP プロファイルに対応しているか。

PB DL : 電話帳転送のための PBAP プロファイルに対応しているか。

・ テストモードを終了するには、[⏻ SRC] を押し続けて本機の電源をオフにします。

Bluetooth — オーディオ

BT AUDIO では、5 台の Bluetooth 機器を接続することができ、その中から 1 台を切り替えて選ぶことができます。



- 1 [SRC]を押してBT AUDIOを選ぶ
- 2 Bluetoothオーディオ機器で再生を開始する

動作	操作パネル
再生 / 一時停止をする	[6] (▶) を押す
グループまたはフォルダーを選ぶ	[^]/[v] を押す
曲 / ファイルを選ぶ	[<<]/[>>] を押す
早戻し / 早送りをする	[<<<]/[>>>] を押し続ける
リピート再生をする	[4] (↺) を繰り返し押す ALL REPEAT、FILE REPEAT、REPEAT OFF
ランダム再生をする	[3] (↻) を押し続けて、ALL RANDOM を選ぶ ・ランダム再生を中止するには、[3] (↻) を押して RANDOM OFF を選びます。
フォルダーまたはリストからファイルを選ぶ	16 ページの「フォルダーまたはリストからファイルを選ぶ」をご覧ください。
接続されている Bluetooth オーディオ機器を切り替える	[5] を押す ・再生したい機器に切り替わらない場合は、“BT MODE”の“AUDIO SELECT”から接続したい Bluetooth 機器を選択してください。 (→ P.25)

- ・ Bluetooth 対応オーディオプレーヤーによっては、フォルダーまたはリストからのファイル選択や、再生方法 (スキップ操作やランダム再生モード切替など) を操作できない場合があります。

音質を設定する

音源が **STANDBY** 以外に選択されているときに設定できます。

- 1 ボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
- 2 ボリュームノブを回して“AUDIO CONTROL”を選び、ボリュームノブを押す(下表参照)
- 3 手順2を繰り返して項目を選び、選んだ項目の表中の指示に従って操作する

・[**Q/△**] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

初期設定: **XX**

AUDIO CONTROL	
SUB-W LEVEL	LEVEL -50 ~ LEVEL +10 (LEVEL 0) : サブウーファーへの出力レベルを調節します。
MANUAL EQ	音質(周波数、トーンレベル、Q ファクター)をお好みに合わせて調節します。 ・調整した設定は、PRESET EQ の USER に保存されます。
62.5HZ	
LEVEL	LEVEL -9 ~ LEVEL +9 (LEVEL 0) : 音源ごとに、保存されます。(調節する前に、調節したい音源を選んでください)
BASS EXTEND	ON/OFF : 低音を響かせるか、どうかの設定をします。
100HZ/160HZ/250HZ/ 400HZ/630HZ/1KHZ/ 1.6KHZ/2.5KHZ/4KHZ/ 6.3KHZ/10KHZ/16KHZ	LEVEL -9 ~ LEVEL +9 (LEVEL 0) : 音源ごとに、保存されます。(調節する前に、調節したい音源を選んでください)
Q FACTOR	1.35/1.50/2.00 : Q ファクター(スロープ)を選びます。
PRESET EQ	NATURAL/ROCK/POPS/EASY/TOP40/JAZZ/POWERFUL/USER : 音楽ジャンルに合った設定を選びます。(USER を選ぶと、MANUAL EQ の設定が利用できます)
BASS BOOST	LEVEL1/LEVEL2/LEVEL3/LEVEL4/LEVEL5/OFF : 低音を5段階で調節します。
LOUDNESS	LEVEL1/LEVEL2/OFF : 小さな音量で音楽を聞くとときに不足しがちな低域と高域の音量を2段階で補正します。
SUBWOOFER SET	ON/OFF : サブウーファーをオン/オフします。
FADER	R15 ~ F15 (0) : 前後の音量バランスを調節します。
BALANCE	L15 ~ R15 (0) : 左右の音量バランスを調節します。
VOLUME OFFSET	-15 ~ +6 (0) : 各音源の音量を設定します。(調節をする前に、設定したい音源を選びます)

SOUND EFFECT	
SOUND RECSTR (Sound reconstruction)	(音源が RADIO および AUX のときは使用できません) ON : デコード時の音声圧縮で失われた高音域成分を補完してリアリティーのあるサウンドを再現します。 OFF : この機能は使用しません。
SPACE ENHANCE	(音源が RADIO のときは使用できません) SMALL/MEDIUM/LARGE/OFF : 音域の広がりをも3段階で調節します。
SND REALIZER	LEVEL1/LEVEL2/LEVEL3/OFF : リアリティーのあるサウンドを3段階で調節します。
STAGE EQ	LOW/MIDDLE/HIGH/OFF : スピーカーから聞こえる音の高さ位置を仮想的に3段階で調節します。
DRIVE EQ	ON/OFF : この機能を使うと周波数をあげてロードノイズの影響を軽減することができます。
SPEAKER SIZE	選んだスピーカー用のクロスオーバーの周波数と Q ファクター (スロープ) の設定は自動的に設定されます。
FRONT	SIZE 8CM/10CM/12CM/13CM/16CM/17CM/18CM/4×6/5×7/6×8/6×9/7×10 : 接続したスピーカーの大きさに合わせて選びます。
	TWEETER SMALL/MIDDLE/LARGE : 接続したフロントスピーカーのツイーターのサイズに合わせて選びます。 NONE : 接続しません。
REAR	8CM/10CM/12CM/13CM/16CM/17CM/18CM/4×6/5×7/6×8/6×9/7×10 : 接続したスピーカーの大きさに合わせて選びます。 NONE : 接続しません。
SUBWOOFER	16CM/20CM/25CM/30CM/38CM OVER : 接続したスピーカーの大きさに合わせて選びます。 NONE : 接続しません。
X'OVER	
TWEETER	FRQ 1KHZ/1.6KHZ/2.5KHZ/4KHZ/5KHZ/6.3KHZ/8KHZ/10KHZ/12.5KHZ : ツイーターのカットオフ周波数を選びます。ツイーターには、この周波数より高い周波数の信号が送られます。
	GAIN LEFT -8 ~ 0 : 左ツイーターのゲインレベルを調節します。
	GAIN RIGHT -8 ~ 0 : 右ツイーターのゲインレベルを調節します。
FRONT HPF	F - HPF FRQ 30HZ/40HZ/50HZ/60HZ/70HZ/80HZ/90HZ/100HZ/120HZ/150HZ/180HZ/220HZ/250HZ : フロントスピーカーへのカットオフ周波数を選びます。フロントスピーカーには、この周波数より高い周波数の信号が送られます。 THROUGH : 全周波数帯の信号がフロントスピーカーに送られます。

	F - HPF SLOPE	-6DB/-12DB/-18DB/-24DB ：フロントスピーカーへのスロープの設定をします。数値が大きいほどスロープの角度が大きくなります。 (“F - HPF FRQ”に“THROUGH”が選択されていた場合は表示されません)
	F - HPF GAIN	-8 ~ 0 ：選択したフロントスピーカーのハイパスフィルターのゲインレベルを調節します。
REAR HPF	R - HPF FRQ	リアスピーカーについても、フロントスピーカーと同様に設定してください。
	R - HPF SLOPE	
	R - HPF GAIN	
SUBWOOFER LPF	SW LPF FRQ	30HZ/40HZ/50HZ/60HZ/70HZ/80HZ/90HZ/100HZ/120HZ/150HZ/180HZ/220HZ/250HZ ：ローパスフィルターのカットオフ周波数を選びます。サブウーファーには、この周波数より低い周波数の信号が送られます。 THROUGH ：全周波数帯の信号がサブウーファーに送られます。
	SW LPF SLOPE	-6DB/-12DB/-18DB/-24DB ：ローパスフィルターのスロープの設定をします。数値が大きいほどスロープの角度が大きくなります。 (“SW LPE FRQ”に“THROUGH”が選択されていた場合は表示されません)
	SW LPF PHASE	REVERSE(180°)/NORMAL(0°) ：サブウーファーの位相を選びます。
	SW LPF GAIN	-8 ~ 0 ：サブウーファーのゲインレベルを調節します。
DTA SETTINGS	設定するには、 デジタルタイムアライメントの設定をする (→ P.31) をご覧ください。	
CAR SETTINGS		

- “SWITCH PREOUT”が“SUBWOOFER”になっているときのみ、次の項目を選ぶことができます。(→ P.34)
 - “SUB-W LEVEL”、“SUBWOOFER SET”
 - “SPEAKER SIZE”の“SUBWOOFER”
 - “X’ OVER”の“SUBWOOFER LPF”
 - “DISTANCE”の“SUBWOOFER”および“DTA SETTINGS”の“GAIN”
- “SUBWOOFER SET”が“ON”になっているときのみ、次の項目を選ぶことができます。(→ P.28)
 - “SUB-W LEVEL”
 - “SPEAKER SIZE”の“SUBWOOFER”
 - “X’ OVER”の“SUBWOOFER LPF”
 - “DISTANCE”の“SUBWOOFER”および“DTA SETTINGS”の“GAIN”
- “SPEAKER SIZE”の“TWEETER”、“REAR”および“SUBWOOFER”が“NONE”以外になっているときのみ、以下を選ぶことができます。
 - “X’ OVER”の“TWEETER”、“REAR HPF”および“SUBWOOFER LPF”

デジタルタイムアライメントの設定をする

デジタルタイムアライメントはスピーカーからの音声の遅延時間を調整して、すべてのスピーカーからの音声が正しいタイミングでリスナーに届くように、車両にあった音場を作ります。

- 詳しくは、“DTA SETTINGS”の“DISTANCE”および“GAIN”の値を設定するをご覧ください。(下表参照)

DTA SETTINGS “CAR SETTINGS”で設定された値を調整します。

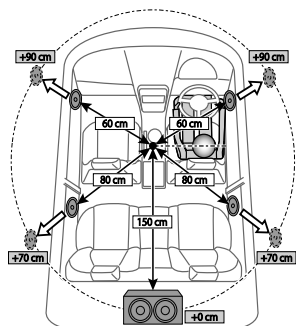
POSITION	リスニングポジション（基準点）を選びます。 ALL ：全座席、 FRONT RIGHT ：右前座席、 FRONT LEFT ：左前座席、 FRONT ALL ：前座席
DISTANCE	0CM ～ 610CM ：スピーカーまでの距離を正しく設定してください。（距離を設定する前に、設定するスピーカーを選んでください）
GAIN	-8DB ～ 0DB ：選択したスピーカーの出力レベルを正しく調節します。（調節する前に、スピーカーを選んでください）
DTA RESET	YES ：選択した“POSITION”の（“DISTANCE”と“GAIN”）を初期値に戻します。 NO ：この機能を使用しません。

CAR SETTINGS 車両タイプとリアスピーカーの位置を選ぶことで“DTA SETTINGS”のDISTANCEとGAINの値を計算し設定します。（SUBWOOFERの値は設定されません）

CAR TYPE	COMPACT/FULL SIZE CAR/WAGON/MINIVAN/SUV/MINIVAN(LONG) ：車両タイプを選びます。 OFF ：車両タイプを選びません。
R-SP LOCATION	リアスピーカーの位置を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • DOOR/REAR DECK：“CAR TYPE”が“OFF”、“COMPACT”、“FULL SIZE CAR”、“WAGON”または“SUV”になっているときのみ選べます。 • 2ND ROW/3RD ROW：“CAR TYPE”が“MINIVAN”または“MINIVAN(LONG)”になっているときのみ選べます。

- “DTA SETTINGS”の“DISTANCE”および“GAIN”の調節をする前に、スピーカーを選んでください。
FRONT LEFT/FRONT RIGHT/REAR LEFT/REAR RIGHT/SUBWOOFER：
“SPEAKER SIZE”の“REAR”および“SUBWOOFER”が“NONE”以外になっているときのみ、“REAR LEFT”、“REAR RIGHT”および“SUBWOOFER”を選ぶことができます。
- “SPEAKER SIZE”の“REAR”が“NONE”以外になっているときのみ、“CAR SETTING”の“R-SP LOCATION”を選ぶことができます。

“DTA SETTINGS”の“DISTANCE”および“GAIN”の値を設定する



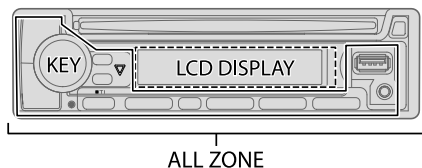
現在選んでいるリスニングポジションからすべてのスピーカーまでの距離を設定すると、ディレイタイムが自動的に計算されます。

- 1 “POSITION”を設定し、基準点としてリスニングポジションを決定する（“FRONT ALL”の基準点は左右の中央となります）
- 2 基準点からスピーカーまでの距離を測る
- 3 最も遠くにあるスピーカー（図ではサブウーファー）と他のスピーカーとの距離を計算する
- 4 手順3で計算した距離を“DISTANCE”のそれぞれのスピーカーに設定する
- 5 それぞれのスピーカーの“GAIN”を調節する

例：“FRONT ALL”がリスニングポジションとして選ばれている場合

ディスプレイの表示を設定する

明るさが設定できるエリア



ディスプレイの設定をする

- 1 ボリュームノブを押して“FUNCTION”モードに入る
 - 2 ボリュームノブを回して“DISPLAY”を選び(下表参照)、ボリュームノブを押す
 - 3 手順2を繰り返して項目を選び、選んだ項目の表中の指示に従って操作する
- ・ [Q / ➡] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

初期設定： **XX**

DISPLAY	
DIMMER	<p>ディスプレイのイルミネーションを暗くします。</p> <p>ON/OFF：ディマー設定をオン/オフにします。</p> <p>DIMMER TIME：ディマーのタイマーを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ボリュームノブを回して設定したい“ON”の時間を設定して、ボリュームノブを押す 2 ボリュームノブを回して設定したい“OFF”の時間を設定して、ボリュームノブを押す <p>(初期設定：“ON”：PM6:00、“OFF”：AM6:00)</p>
BRIGHTNESS	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボリュームノブを回して設定したいエリア (<u>ALL ZONE/LCD DISPLAY/KEY</u>) を選んでボリュームノブを押す 2 ボリュームノブを回してお好みの明るさに (0 ~ 31) 設定して、ボリュームノブを押す
TEXT SCROLL	<p>AUTO/ONCE：ディスプレイに一度で表示しきれない文字情報を、繰り返しスクロールして表示するか (AUTO)、一度だけスクロールして表示するか (ONCE) を設定します。</p> <p>OFF：この機能を使用しません。</p>




ディスプレイの表示を変更する

[DISP] を押すと、表示される情報が変わります。

- 情報がない場合、または記録されていない場合は“NO TEXT” または“NO INFO”、その他の情報（放送局や再生時間など）が表示されます。

音源	ディスプレイ表示の内容
STANDBY	曜日と時計 →（最初に戻る）
RADIO	バンドと周波数 → 曜日と時計 →（最初に戻る）
CD または USB	（音楽 CD の場合） ディスク名 / アーティスト名 → トラック名 / アーティスト名 → 再生時間 → 時計 →（最初に戻る） （MP3/WMA/AAC/WAV/FLAC ファイル） 曲名 / アーティスト名 → アルバム名 / アーティスト名 → フォルダー名 → ファイル名 → 再生時間 → 時計 →（最初に戻る）
iPod USB/ iPod BT または ANDROID	“MODE OFF”/“BROWSE MODE” が選ばれているときのみ（→ P.15）： 曲名 / アーティスト名 → アルバム名 / アーティスト名 → 再生時間 → 時計 →（最初に戻る）
SPOTIFY/ SPOTIFY BT	コンテキスト名 → 曲名 → アーティスト名 → アルバム名 → 再生時間 → 時計 →（最初に戻る）
BT AUDIO	曲名 / アーティスト名 → アルバム名 / アーティスト名 → 再生時間 → 時計 →（最初に戻る）
AUX	曜日と時計 →（最初に戻る）

その他の設定

- 1 [ **SRC**] を繰り返し押しして STANDBY を選ぶ
 - 2 ボリュームノブを押して “FUNCTION” モードに入る
 - 3 ボリュームノブを回して設定したい項目を選び、ボリュームノブを押す
 - 4 手順3を繰り返して項目を選び、設定する
- ・ [ / ] を押すと、ひとつ前の設定項目に戻ります。

初期設定： **XX**

AUDIO CONTROL	
SWITCH PREOUT	REAR/SUBWOOFER ：リアスピーカーまたはサブウーファーを外部アンプを使って、背面のLINE OUT（ライン出力）端子に接続するかを選びます。
TUNER SETTING	
PRESET TYPE	NORMAL ：バンドごとに、6つの放送局を登録できます。 MIX ：バンドに関係なく、6つの放送局を登録できます。
SYSTEM	
KEY BEEP	ON/OFF ：操作時のピープ音をオン/オフにします。
SOURCE SELECT	
SPOTIFY SRC	ON/OFF ：この機能をオンにするとSPOTIFYを音源として選べるようになります。（→ P.19）
BUILT-IN AUX	ON/OFF ：この機能をオンにするとAUX（外部機器）を音源として選べるようになります。（→ P.18）
CD READ	1：自動的にオーディオファイルのディスクと音楽CDを識別します。 2：音楽CDを再生します。オーディオファイルのディスクが再生されたときは、音は出ません。
F/W UPDATE	
UPDATE SYSTEM	
F/W UP XXX	YES ：ファームウェアのアップデートを開始します。 NO ：キャンセルします（アップデートは実行されません）。 ファームウェアのアップデートについては、下記URLをご覧ください。 < http://www.kenwood.com/jp/products/oem/dop/suzuki/ >
STEER.REMOTE	SUZUKI A/SUZUKI B/SUZUKI C/SUZUKI D ステアリングリモコンの設定で使用します。設定は販売店で行います。 ステアリングリモコンキーの機能については 10 ページをご覧ください。
FACTORY RESET	YES/NO ：この機能を使うと設定が初期設定にリセットされます（登録した放送局を除く）。
CLOCK	
CLOCK DISPLAY	ON/OFF ：本機の電源がオフのときでも、時計を表示します。

その他の情報

最新ファームウェアへのアップデート

下記のホームページをご覧ください。

[<http://www.kenwood.com/jp/products/oem/dop/suzuki/>](http://www.kenwood.com/jp/products/oem/dop/suzuki/)

KENWOOD リモートアプリ /KENWOOD MUSIC PLAY について

下記のホームページをご覧ください。

[<http://www.kenwood.com/jp/products/car_audio/app/>](http://www.kenwood.com/jp/products/car_audio/app/)

再生できるファイル

- 再生可能なオーディオファイル：

ディスクについて：MP3 (.mp3)、WMA (.wma)、AAC (.aac)

USB マスストレージクラス機器：MP3 (.mp3)、WMA (.wma)、AAC (.aac)、AAC (.m4a)、WAV (.wav)、FLAC (.flac)

- 再生可能なディスク：CD-R/CD-RW/CD-ROM

- 再生可能なディスクのフォーマット：ISO 9660 Level 1/2、Joliet、Long file name

- 再生可能な USB 機器ファイルシステム：FAT12、FAT16、FAT32

オーディオファイルが上記に対応していても、メディアや機器のタイプや状況により再生できないことがあります。

iTunes でエンコードされた CD の AAC (.m4a) ファイルは本機では再生できません。

USB 機器について

- USB ハブを介して USB 機器を接続することはできません。

- 全長 5m 以上の USB ケーブルを使っているときは、再生不良の原因となります。

- 消費電流が 1.5 A 以上の USB 機器は接続しないでください。接続すると故障する可能性があります。

Android について

- 本機は Android OS 4.1 以降に対応しています。

- Android によっては OS が 4.1 以降であっても、AOA 2.0 に対応していないことがあります。

- お使いの Android がマスストレージクラス機器と AOA 2.0 の両方に対応しているときは、優先的に AOA 2.0 で再生されます。

iPod または iPhone について

Made for

– iPod touch (5th and 6th generation)

– iPod nano (7th generation)

– iPhone 4S、5、5S、5C、6、6 Plus、6S、6S Plus、SE、7、7 Plus、8、8 Plus、X

- iPod に “KENWOOD” または “✓” と表示されているときは、iPod の操作はできません。

- iPod または iPhone の OS のバージョンによっては、本機では働かない機能があります。

故障かな?と思ったら

症状	対処方法	
一般	音が出ない	音量を調節してください。音量を調節しても音が出ない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。
	“MISWIRING CHECK WIRING THEN PWR ON”と表示される	お買い上げの販売店にご相談ください。
	“PROTECTING SEND SERVICE”と表示される	お買い上げの販売店にご相談ください。
	本機が動作しない	本機をリセットしてください。(→ P.6) リセットしても動作しない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> • ラジオの感度が悪い • ラジオに雑音が入る 	お買い上げの販売店にご相談ください。
	ディスクが取り出せない	ディスクが完全に排出されるまで [▲] を押し続けてください (ディスクが排出されるときに、ディスクを落とさないように気をつけてください)。それでも取り出せないときは、本機をリセットしてください。(→ P.6)
CD/USB/iPod	雑音が入る	他の曲を選ぶか、ディスクを取り替えてください。
	思う順に曲が再生できない	ファイルが保存された時点で再生の曲順が決まります。
	“READING” が点滅し続ける	収録されているデータのフォルダーの階層が深い、またはフォルダー数が多過ぎます。
	経過時間が正確でない	曲の録音のしかたによります。
	[R/⏪] を押して検索モードに入ると“LOADING”と表示される	本機が iPod または iPhone のミュージックリストを準備しています。時間がかかる場合があります。時間をおいて試してください。
	ディスプレイの表示が正確でない (アルバム名など)	本機は英大文字と数字しか表示できません。
	“NA FILE”	再生できるファイルがあることを確認してください。(→ P.35)
	“NO DISC”	再生可能なディスクをディスク挿入口に入れてください。
	“TOC ERROR”	ディスクのクリーニングをして、正しい向きで挿入し直してください。
	“PLEASE EJECT”	本機をリセットしてください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
	“NO DEVICE”	USB 機器を接続し、もう一度、音源を USB にしてください。
	“COPY PRO”	ファイルはコピープロテクトされています。
	“UNSUPPORTED DEVICE”	<ul style="list-style-type: none"> • 接続している機器が本機に対応しているか、ファイルフォーマットがシステムに対応しているかを確認してください。(→ P.35) • 機器を接続し直してください。

症状	対処方法	
CD/USB/iPod	“UNRESPONSIVE DEVICE”	機器が正常に動作するかを確認して、機器を接続し直してください。
	“USB HUB IS NOT SUPPORTED”	本機では USB ハブを介して接続されている USB 機器は使えません。
	<ul style="list-style-type: none"> 他の音源を聞いているときに USB 機器を接続しても、音源が “USB” に切り換わらない “USB ERROR” が表示される 	本機の電源をオフにして、USB 機器を取りはずし、もう一度電源をオンにして USB 機器を接続し直してください。それでも問題が解決しない場合は、本機の電源をオフにして、もう一度オンにして（またはリセットして）から他の USB 機器を接続してください。
	“NO MUSIC”	再生可能なオーディオファイルが記録された USB 機器を接続してください。
	“iPod ERROR”	<ul style="list-style-type: none"> iPod を接続し直してください。 iPod をリセットしてください。
Android	<ul style="list-style-type: none"> 音が出ない Android の音しか出ない 	<ul style="list-style-type: none"> Android を接続し直してください。 “HAND MODE” のとき、Android の再生アプリで再生してください。 “HAND MODE” のとき、もう一度、使用中の Android の再生アプリを使うか、他の再生アプリで再生してください。 Android を再起動してください。 接続している Android から本機にオーディオ信号が送られていません。
	“ BROWSE MODE ” で再生できない	<ul style="list-style-type: none"> KENWOOD MUSIC PLAY のアプリが Android にインストールされているかを確認してください。 Android を接続し直し、正しい設定を選んでください。 それでも問題が解決しない場合は、接続している Android が、“BROWSE MODE” に対応していません。
	“NO DEVICE” または “READING” が点滅し続ける	<ul style="list-style-type: none"> Android の開発者向けオプションをオフにしてください。 Android を接続し直してください。 それでも問題が解決しない場合は、接続している Android が、“BROWSE MODE” に対応していません。
	再生時に音が飛んだり、途切れる	Android の節電モードをオフにしてください。
	“ANDROID ERROR” / “NA DEVICE”	<ul style="list-style-type: none"> Android を接続し直してください。 Android を再起動してください。
Spotify	“DISCONNECTED”	機器が USB 入力端子に接続されていません。機器が正しく USB 接続されていることを確認してください。
	“CONNECTING”	<ul style="list-style-type: none"> USB 入力端子に接続されている場合：接続中です。しばらくお待ちください。 Bluetooth 接続されている場合：Bluetooth が接続されていません。Bluetooth が正しく接続されているかを確認して、お使いの機器と本機がペアリングされ正しく接続されているかを確認してください。
	“CHECK APP”	Spotify アプリが正しく接続されていない、またはログインがされていません。Spotify アプリを終了して再起動し、もう一度 Spotify アカウントにログインしてください。

		症状	対処方法
Bluetooth		Bluetooth 機器が検出されない	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 機器から、再度検出してください。 本機をリセットしてください。(→ P.6)
		Bluetooth 機器とのペアリングができない	<ul style="list-style-type: none"> 本機と Bluetooth 機器に同じ PIN コードが入力されていることを確認してください。 本機と Bluetooth 機器からペアリングの情報を削除し、もう一度、ペアリングを実行してください。(→ P.21)
		通話中にエコーがかかる、または雑音が入る	<ul style="list-style-type: none"> マイクの角度を調節してください。 “ECHO CANCEL” の設定を確認してください。(→ P.23)
		通話品質が悪い	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 機器を本機に近づけてください。 車両を電波状況の良い場所に移動させてください。
		音声やボイスコマンドが正しく認識されない	<ul style="list-style-type: none"> 静かな場所でマイクに向かって発声してください。 マイクの近くで「名前」を言ってください。 音声を事前に登録する必要がある機器では登録者の声のみ認識します。
		Bluetooth オーディオプレーヤーの再生中に音が飛んだり、途切れる	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 機器を本機に近づけてください。 本機の電源をオフにして、またオンにして接続し直してください。 他の Bluetooth 機器の電源をオフにするか、Bluetooth 機器を遠ざけてください。
		接続した Bluetooth 機器が操作できない	<ul style="list-style-type: none"> 接続されている Bluetooth 機器が Audio/Video Remote Control Profile (AVRCP) に対応しているかを確認してください。(お使いのオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください) Bluetooth 機器を接続し直してください。
		“DEVICE FULL”	Bluetooth 機器をこれ以上登録できません。お使いにならない機器の登録を削除してから、やり直してください。(→ P.26、 DEVICE DELETE)
		“N/A VOICE TAG”	音声を事前に登録する必要がある機器では登録者の声のみ認識します。
		“NOT SUPPORT”	携帯電話が音声認識または電話帳転送に対応していません。
		“NO ENTRY”/“NO PAIR”	登録済の機器が接続されていません。
		“ERROR”	もう一度操作をしてください。“ERROR” が再度表示されたときは、お使いの機器が利用しようとしている機能に対応しているか確認してください。
		“NO INFO”/“NO DATA”	電話番号などの連絡先のデータがありません。
		“HF ERROR XX”/ “BT ERROR”	本機をリセットしてもう一度操作してください。それでもエラーメッセージが表示される場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
	“SWITCHING NG”	接続されている携帯電話はこの機能に対応していません。	

仕様

チューナー部	FM 受信周波数範囲	76.0 MHz ~ 99.0 MHz (100 kHz)
	実用感度 (S/N=30 dB、 偏差 22.5 kHz)	8.2 dBf (0.71 μ V/75 Ω)
	S/N=46 dB 感度、 偏差 40 kHz	17.2 dBf (2.0 μ V/75 Ω)
	周波数特性	30 Hz ~ 15 kHz (\pm 3 dB)
	S/N 比	64 dB (MONO)
	ステレオセパレーション	40 dB (1 kHz)
AM	受信周波数範囲	522 kHz ~ 1629 kHz (9 kHz)
	実用感度 (S/N=20 dB)	29 dB μ (28.2 μ V)
CDプレーヤー部	レーザーダイオード	GaAlAs
	デジタルフィルター (D/A)	8 倍オーバーサンプリング
	回転数	500 rpm ~ 200 rpm (線速度一定)
	ワウ & フラッター	測定限界以下
	周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz (\pm 1 dB)
	高調波歪み率	0.01 % (1 kHz)
	S/N 比	105 dB (1 kHz)
	ダイナミックレンジ	90 dB
	チャンネルセパレーション	85 dB
	MP3 デコード	MPEG-1/2 Audio Layer-3 準拠
WMA デコード	Windows Media Audio 準拠	
AAC デコード	AAC-LC “.aac” ファイル	
USB	USB 規格	USB 1.1、USB 2.0 (Full speed)
	ファイルシステム	FAT12/16/32
	最大供給電流	DC 5 V \equiv 1.5 A
	MP3 デコード	MPEG-1/2 Audio Layer-3 準拠
	WMA デコード	Windows Media Audio 準拠
	AAC デコード	AAC-LC “.aac”、“.m4a” ファイル
	WAV デコード	リニア PCM
	FLAC デコード	FLAC ファイル (96 kHz/24 bit まで対応)

Bluetooth部	規格	Bluetooth 3.0	
	受信周波数範囲	2.402 GHz ~ 2.480 GHz	
	出力	+4 dBm (最大)、0 dBm (平均) パワークラス 2	
	最大通信距離	約 10 m	
	プロファイル	HFP (Hands-Free Profile) A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) SPP (Serial Port Profile) PBAP (Phonebook Access Profile)	
AUX入力	周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz (± 3 dB)	
	入力最大電圧	1000 mV	
	入力インピーダンス	30 k Ω	
オーディオ部	最大出力	50 W \times 4	
	定格出力	30 W \times 4 (4 Ω 、1 kHz、10 % THD 以下)	
	スピーカーインピーダンス	4 Ω ~ 8 Ω	
	オーディオコントロール	Band 1 : 62.5 Hz \pm 9 dB Band 2 : 100 Hz \pm 9 dB Band 3 : 160 Hz \pm 9 dB Band 4 : 250 Hz \pm 9 dB Band 5 : 400 Hz \pm 9 dB Band 6 : 630 Hz \pm 9 dB Band 7 : 1 kHz \pm 9 dB Band 8 : 1.6 kHz \pm 9 dB Band 9 : 2.5 kHz \pm 9 dB Band 10 : 4 kHz \pm 9 dB Band 11 : 6.3 kHz \pm 9 dB Band 12 : 10 kHz \pm 9 dB Band 13 : 16 kHz \pm 9 dB	
	プリアウトレベル (CD)	2500 mV/10 k Ω	
	プリアウトインピーダンス	\leq 600 Ω	
	一般	電源電圧	14.4 V (10.5 V ~ 16 V)
		最大消費電流	10 A
		使用温度範囲	-10 $^{\circ}$ C ~ +60 $^{\circ}$ C
		埋込寸法 (幅 \times 高さ \times 奥行)	178 mm \times 50 mm \times 158 mm
質量		1.1 kg	

仕様およびデザインは、予告なく変わる場合があります。

保証とアフターサービス

保証について

- **保証書** この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめの上販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

修理に関するご相談は

修理などアフターサービスについてはお買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。

<問い合わせ先>

JVC ケンウッドカスタマーサポートセンター

フリーダイヤル 0120-977-846 (ディーラーオプション専用窓口)

FAX 045-450-2308

住所 〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00

(土曜、日曜、祝日および当社休日とは休ませていただきます)

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(→ P.36)を参照してお調べいただき、それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容が全て消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

● 保証期間中は…

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。本機以外の原因(衝撃や水分、異物の混入など)による故障の場合は、保証対象外となります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後は…

お買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

● 持込修理 この製品は持込修理とさせていただきます。

製品を修理のために、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお持ちになるときは、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。本機と一緒に持ち込まれるユニット内のディスクなどのメディアはあらかじめ取り出してください。

● 車両からの取り外し / 取り付けについて

修理をご依頼される場合は、製品を車両から取り外した状態でお買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお持ちください。

なお、保証期間の内外に関わらず、修理、点検のために製品を車両から取り外しまたは取り付けした場合の作業費用の負担、および作業のご依頼は承っておりません。

● 修理料金のしくみ (有料修理の場合は、つぎの料金が必要になります。)

技術料: 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。

部品代: 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

特許権 / 著作権 / 商標など

- Microsoft and Windows Media are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.
- Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple product(s) identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.
- Apple, iPhone, iPod, iPod nano, iPod touch, iTunes, and Lightning are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. The trademark "iPhone" is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
- IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- The "AAC" logo is a trademark of Dolby Laboratories.
- SPOTIFY and the Spotify logo are among the registered trademarks of Spotify AB.
- Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC の登録商標で、株式会社JVCケンウッドはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- Android Google Play are trademarks of Google LLC.

ソフトウェアについて

-jansson

Copyright (c) 2009-2012 Petri Lehtinen <petri@digip.org>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

-CMP

The MIT License (MIT)

Copyright (c) 2014 Charles Gunyon

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated

documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING

BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

-cJSON

Copyright (c) 2009 Dave Gamble

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION

OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

sha2

AUTHOR: Aaron D. Gifford - <http://www.aarongifford.com/>

Copyright (c) 2000-2001, Aaron D. Gifford
All rights reserved.

You may obtain a copy of the license at
<https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Posix

Copyright (c) 1990, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

Copyright (C) 1993 by Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Developed at SunPro, a Sun Microsystems, Inc. business.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software is freely granted, provided that this notice is preserved.

Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

Copyright (c) 1995, 1996 Carnegie-Mellon University.
All rights reserved.

Author: Chris G. Demetriou

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation is hereby granted, provided that both the copyright notice and this permission notice appear in all copies of the software, derivative works or modified versions, and any portions thereof, and that both notices appear in supporting documentation.

CARNEGIE MELLON ALLOWS FREE USE OF THIS SOFTWARE IN ITS "AS IS" CONDITION. CARNEGIE MELLON DISCLAIMS ANY LIABILITY OF ANY KIND FOR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE USE OF THIS SOFTWARE.

Carnegie Mellon requests users of this software to return to

Software Distribution Coordinator or Software.Distribution@CS.CMU.EDU
School of Computer Science
Carnegie Mellon University
Pittsburgh PA 15213-3890

any improvements or extensions that they make and grant Carnegie the rights to redistribute these changes. License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

Copyright (c) 1993 Martin Birgmeier
All rights reserved.

You may redistribute unmodified or modified versions of this source code provided that the above copyright notice and this and the following conditions are retained.

This software is provided "as is", and comes with no warranties of any kind. I shall in no event be liable for anything that happens to anyone/anything when using this software. These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

T-Kernel 2.0

This product uses the source code of T-Kernel 2.0 under T-License 2.0 granted by T-Engine Forum (www.tron.org)

BSD-3-Clause

Copyright (c) 2000-2001, Aaron D. Gifford All rights reserved.

You may obtain a copy of the license at <https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

LFS Subsystem

Copyright The Regents of the University of California. All rights reserved.

You may obtain a copy of the license at

<https://directory.fsf.org/wiki/License:BSD-4-Clause>

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Accordo2 Player

Apache License

Licensed under the Apache License,

Version 2.0, January 2004(the "License");

You may obtain a copy of the license at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12